

奉祝 天皇陛下御即位



令和元年五月八日 賢所に期日奉告の儀
(写真提供/神社新報社)



発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一号
志波彦神社
鹽竈神社 社務所
電話 〇二二三六七二六一(代)
FAX 〇二二三六五五五三〇
<http://www.shiogamajinja.jp/>



新帝即位の御大礼は、いよいよ即位礼と大嘗祭を迎える。全国の神社においても十月二十二日に即位礼当日祭、十一月十四日には大嘗祭奉祝祭が斎行されることとなる。又、大嘗祭の直前の十二日には臨時大祓も行われる。先帝は皇太子時代の昭和六十一年、大嘗祭を行うことが出来なかつた後奈良天皇の御言葉引用されて、自分も又、大嘗祭を行うことが出来ないのではないかと、この危惧を暗示されている。当時、政府は御代替わりの儀礼において皇室の伝統を歪めることも止むなしとの判断であった。しかし、昭和天皇の御平癒を祈って皇居前には大勢の国民が列をなし、御平癒祈願の記帳所が全国に設置され署名は一千万名に達した。又、大嘗祭の伝統を守るべきとの請願署名も六百万人に及んだ。皇室を敬愛する広く深い国民感情は、政府を動かし大嘗祭は古式習って斎行されたのだった。国家も又、年月を重ねるうちに知らず知らず罪穢れを生じてゆく。これを祓い清める臨時大祓が大嘗祭の前に執行される意味は深い。

日々のこのわが行く道を正さむと

かくれたる人の声をもとむる
昭和天皇の御製からは、己に罪や穢れのあることを恐れ、ひたすら御精進なされていることが窺える。その上で、国家の平安と国民の安寧を日々神々に祈られる天皇の公正無私の高貴なる御精神こそが、苦しみや悲しみの時にある人々を励まし、人に優しく親切でありたいと願う国民の理想であり続ける。大御心継承の秋である。

令和の御大札

天皇陛下におかせられましたは、この秋、即位礼並びに大嘗祭を行わせられます。

「御大札」とは、御即位の儀式の総称で、国民の奉祝行事などもすべて含めて、「御大典」とも申し上げます。

ここに、これまでの御大札の諸儀式の日程と、この佳節を祝し、当社で齋行する祭典をあわせ御紹介します。

御大札の諸儀式

五月一日

劍璽等承継の儀

皇靈殿神殿に奉告の儀

即位後朝見の儀



即位後朝見の儀 (写真提供/神社新報社)

五月一日から三日
賢所の儀

五月四日
御即位一般参賀

五月八日
賢所に期日奉告の儀

皇靈殿神殿に期日奉告の儀
賢所・皇靈殿・神殿の宮中三殿に即位礼と大嘗祭を行う期日を天皇陛下がみずから奉告されました。

神宮神武天皇山稜及び

昭和天皇以前四代の天皇山稜に勅使発遣の儀

五月十日

神宮に奉幣の儀

神宮神武天皇山稜及び

昭和天皇以前四代の天皇山稜に奉幣の儀

神宮と神武・孝明・明治・大正・昭和天皇の各御陵に、即位礼と大嘗祭の期日を奉告するため、勅使が派遣されました。勅使は期日を奉告し、お供えを捧げました。

五月十三日
齋田点定の儀

大嘗宮地鎮祭
大嘗祭は皇居東御苑が祭場となります。

齋田拔穂前一日大祓

齋田拔穂の儀

悠紀主基両地方新穀供納

悠紀地方(東日本代表)

栃木県

主基地方(西日本代表)

京都府

十月二十二日

即位礼当日賢所大前の儀

即位礼当日皇靈殿神殿に奉告の儀

即位礼正殿の儀

皇居の正殿に設置された高御座において、天皇陛下が御即位を国内外に宣言されます。当社では「即位礼当日祭」を齋行します。

祝賀御列の儀

皇居から赤坂御用地までお車でパレードが行われます。

十月二十二・二十五・二十九・三十一日

饗宴の儀

十一月八日
神宮に勅使発遣の儀

十一月十二日

大嘗祭前二日御祓

大嘗祭前二日大祓

大嘗祭二日前、天皇皇后両陛下の御祓いと、皇族方をはじめ関係諸員の御祓いを行います。

当社では「臨時大祓式」を六月大祓や十二月大晦日大祓に準じ齋行します。

十一月十三日

大嘗祭前一日鎮魂の儀

大嘗祭前一日大嘗宮鎮祭

十一月十四日

大嘗祭当日神宮に奉幣の儀

大嘗祭当日

賢所大御饌供進の儀

大嘗祭当日
皇靈殿神殿に奉告の儀

十一月十四日・十五日
大嘗宮の儀(大嘗祭)

大嘗祭は、天皇陛下が御即位後、初めて行わせられる新嘗祭で、御一代に一度の重儀とされる祭祀です。

その期日は、古儀において十一月下卯の日(卯の日)が三

回ある場合は中卯の日)と定

められ、大嘗祭も同様でありました。

明治になり太陽暦の採用によって十一月二十三日が下卯の日に相当した為、祭日として現在に至っています。

戦後、即位に関する諸儀式の規定が不備な状況のなか、平成の大嘗祭は十一月二十二日(下卯)・二十三日に齋行され、この度は十一月十四日(中卯)十五日と古儀における定めに添う期日となりました。

十一月十六日

大嘗祭後一日大嘗宮鎮祭

十一月十六・十八日

大饗の儀

即位礼及び大嘗祭後には、神宮と神武・孝明・明治・大正・昭和天皇の各御陵に、天皇陛下がみずから拝礼し、儀式の完遂を報告されます。

また、宮中三殿にも拝礼され、賢所に御神楽を奏します。大嘗宮は撤去され、その跡地の地鎮祭が行われ、御大札の儀式は終了します。

天皇陛下御即位奉祝事業

前号に続き、天皇陛下御即位奉祝事業を御紹介いたします。

左右宮拝殿

手すり奉納



左右宮拝殿に設置の手すり

天皇陛下の御即位を奉祝し、櫻井文夫・津多子両氏（仙台市太白区在）より御奉納いただいた篤志により、左右宮拝殿に手すりが設置されました。七月十日の例祭に併せ、氏子崇敬者に披露されました。



社務所屋根

銅板葺替工事

社務所は昭和十三年の志波彦神社造営にあわせて、現在地に移築され、以降増改築が重ねられてきました。主要部分は近代の和風建築として高く評価されています。築八十年を経て老朽化が進み、八月より銅板屋根の葺替を実施しています。



葺替中の社務所

文庫屋根

檜皮葺替工事

境内で一番古い建造物であるといわれる文庫の檜皮屋根



葺替中の文庫

今後事業は実施予定です。

これまでに左記の事業を実施しました。
鹽竈神社拝殿内狛犬修補寄進
鹽竈神社別宮拝殿手すり奉納
刀剣「国包」奉納奉告祭
第二講堂渡廊下修理工事
社内電話設備交換
古神符焼却炉新設工事

葺替工事を実施しています。元々は「鐘楼堂」と呼ばれ、現在の祭務所近くにあります。現在の祭務所時代に現在地の車祓所横に移築し「文庫」と改称されました。村井古巖本等の書籍が納められていました。工事中は御不便をおかけしますが、御理解と御協力の程、お願い申し上げます。

新総代就任

当社の総代の任期が満了したことに伴い、新たに総代の選任がなされました。

七月二十日に就任奉告祭が鹽竈神社別宮において斎行され、左記の方々へ宮司より委嘱状が交付されました。

志波彦神社 総代
鹽竈神社

- 鈴木 彰 (重任)
- 菅野 庸 (重任)
- 佐藤 仁一郎 (重任)
- 和田 忠 (重任)
- 志賀 重信 (重任)
- 水野 暢大 (重任)
- 鈴木 健史 (重任)
- 桑原 茂 (重任)
- 志賀 直哉 (重任)
- 津田 武彦 (重任)
- 菅原 宏和 (重任)
- 勝又 實 (新任)
- 下山 雄司 (新任)
- 土井 儀憲 (新任)
- 小泉 幸彌 (新任)
- 阿部 善久 (新任)
- 横田 善光 (新任)

また、今回勇退された総代在任期間十年以上の左記の方々

へ感謝状が贈呈されました。(敬称略)

- 渡邊 昭二
- 佐藤 徳雄
- 郷家 照夫
- 小島 邦雄



責任役員総代研修旅行実施

九月七日から九日にかけて、当社責任役員総代の研修旅行を実施しました。

福岡県福津市の宮地嶽神社を正式参拝し、吉野ヶ里遺跡を見学、翌日は佐賀県鹿島市の祐徳稲荷神社、長崎市の鎮西大社諏訪神社を正式参拝、長崎市内を観光しました。

最終日には唐津市内を観光し帰路に着きました。

志波彦神社遷座記念祭 並びに氏子崇敬会秋季大祭



竣工当時の志波彦神社

九月二十九日、志波彦神社遷座記念祭並びに氏子崇敬会秋季大祭が斎行されました。志波彦神社は、「延喜式」神名帳に名神大社として記された古社で、かつては岩切村(仙台市宮城野区岩切)に鎮座して朝野から崇敬を集めました。明治四年に国幣中社に列格、明治七年に鹽竈神社別宮へ遷祀され、昭和十三年に国費により御社殿の造営がなされました。

その年の九月二十八日夜、鹽竈神社別宮より竣工なった新社殿を臨時の雨儀廊で結び、



現在の社殿

浄間に警蹕が響き渡る中、志波彦大神の御神霊が遷座されました。翌二十九日には御遷宮奉祝祭が斎行され、地方長官・内務省高等官・地方高等官を含む六五〇名の参列者で境内は賑わったと伝えられます。近代神社建築の粋を集めて造営された御社殿は厳格な趣に満ち、昭和三十八年に塩竈市の文化財に指定されています。また鮮やかな朱塗の大鳥居は昭和十五年に完成し、現在も多くの参拝者を迎えています。

裏千家献茶祭

十月五日

十月五日(土)、裏千家献茶祭が鹽竈神社左右宮において斎行されます。

当日は、裏千家家元名代・千敬史氏のお点前で濃茶・薄茶が点てられ、御神前にお供えされます。

「茶道裏千家淡交会宮城支部(鎌田宗州支部)が主催する献茶祭は、十四代家元淡々齋宗匠と嘉代子夫人(仙台市出身)、また夫人の叔母であり養母で



あつた伊藤幾久寿女史(号宗幾)が昭和五年四月に献茶を行われたことに始まります。祭典後は社務所全館で茶会が催され、多くの門人が茶の湯を通じて交流を深めます。

十一月二十三日 初穂曳奉仕者募集

ただいま鹽竈神社奉仕会では、老若男女を問わず「初穂曳」の奉仕者を募集しています。

参加費は無料。皆様お誘い合せのうえ、ぜひご参加ください。

お申込み・お問合せは社務所までお願いします。



七五三詣の御案内

七五三は、氏神様の御加護のよって無事成長できたことを感謝すると共に、これからの生活も見守って下さる様お願いする大切な人生儀礼です。

三歳男女の「髪置」・五歳男子の「袴着」・七歳女子の「帯解」と、それぞれ節目の年齢を祝ってお参りが行われてきました。

当社では十月一日から十一月末日まで、七五三祈禱を受けられたお子様に記念品を授与します。御家族お揃いで御参詣ください。



講社だより

塩竈千人講講社祭

六月二十三日、塩竈千人講講社祭が佐藤今朝吉講長以下八十五名の講員参列のもと、鹽竈神社左右宮において斎行されました。

本年は左記の方々が一昨年連続表彰を受けられましたので御芳名を御紹介いたします。(敬称略)

令和元年度継続講員表彰者

◇四十年表彰

松戸 信三・佐藤 栄七

大工原 浩・鈴木 和子

仙石 久芳・菅野 和利

松本 文寿・須田 義太郎

遠藤 初男・佐藤 今朝吉

高橋 吉雄・佐藤 カツコ

佐藤 勇五郎・福永 孝二

大江 健治・小野 清勝

小野寺 尚文・末永 誠市

◇三十年表彰

阿部 功

◇二十年表彰

松戸 信博

◇十年表彰

小畑 彬

講社大祭のご案内

来る十月十二日(土)より十四日(月)にかけて講社大祭を斎行いたします。

県内はもとより、全国各地の講員の方々が大神様に報恩の誠を捧げ、家内安全・商売繁盛を祈願します。

期間中は神楽が奉納され、境内は多くの参拝者で賑わいます。

〈神楽奉納団体〉

十二日 城生野神楽

十三日 樺崎法印神楽保存会

十四日 塩竈神楽保存会

*それぞれ午前九時より午後二時頃まで



神楽の奉納

敬神婦人講だより

大年寺墓参

並びに研修旅行実施

六月二十日、恒例の大年寺墓参に併せて研修旅行を実施しました。

当社に縁の深い四代藩主綱村公の命日に併せての墓参であり、参拝後、伊達家第十八代当主伊達泰宗様より御挨拶いただきました。

氏子崇敬会研修旅行

氏子崇敬会では九月十六日より十七日にかけて、研修旅行を実施しました。

先ず女川町に向かった一行は、語り部ガイドの案内により被災地を視察。その後、当社に長年にわたり奉職されていた尾形公夫宮司の気仙沼市羽田神社を正式参拝、会員は尾形宮司と旧交を深めました。翌日は、今年の春に気仙沼大橋が開通した気仙沼市大島の大島神社(小松勝磨宮司)を正式参拝し、登米市のみやぎの明治村や涌谷天平ロマン館を見学し帰路に着きました。

全国敬神婦人大会参加

並びに研修旅行実施

九月十一日から十三日にかけて第七十回全国敬神婦人大会広島県大会が開催され、宮城県より二十六名、当社婦人講より十名が参加しました。

一行は広島空港へ旅立ち、厳島神社を正式参拝、翌日は原爆ドーム・広島平和祈念資料館を見学し、大会に出席しました。

最終日は岡山県倉敷市へ足を延ばし倉敷美観地区を散策し帰路に着きました。

一森会総会

八月二十七日、当社神職養成所卒業生の同窓会である一森会(及川祐幸会長)の令和元年度総会が社務所大講堂において開催されました。

三十七名の出席者は正式参拝後、総会を滞りなく終え、松島「ホテル大観荘」へ移動し、当社神職を交え懇親会となりました。

当養成所の卒業生は五九七名、北は北海道から南は和歌山県まで父祖累代の神社や諸大社に奉仕し、斯道興隆のため活躍しています。

塩竈市関係戦没者遺族会慰霊祭

九月二日、塩竈市関係戦没者遺族会主催の慰霊祭が当社大講堂において斎行されました。

宮城県知事をはじめ、塩竈市長、塩竈市議会議長、宮城県連合遺族会会長のほか、六十名が参列のもと、神楽「浦安の舞」が奉奏され、日清・日露戦争より大東亜戦争まで亡くなった塩竈市の戦没者千五百四十四柱の御霊の御霊に追悼の誠を捧げました。

祭壇両脇には、遺族会副会長長川辺浩一・丹野洋子両氏の手による月見ヶ丘慰霊塔の英霊名簿の拓本が掲げられました。



浦安の舞

鹽竈 会 総 会

鹽竈の社名を冠し、当社と御祭神を同じくする神社で結成された「鹽竈会」では、六月十三日に本社にて総会が開催されました。

本年度は、役員改選にあたり、長年副会長を勤めた大澤明三氏が顧問に就任されました。

総会後は岩手県奥州市の駒形神社(山下明宮司)、翌十四日には花巻市の鳥谷崎神社(稲田典之宮司)を参拝し、親睦を深めました。

令和元年度功労表彰者を御紹介します。(敬称略)

宮城県亙理郡 鹽竈神社(渡邊宮司)
氏子 株式会社太田工務店 代表取締役 太田 修
氏子 佐藤 傳

新役員の御紹介 (敬称略)
会長 志波彦神社 鹽竈神社

副会長 岩手県・駒形神社 宮司 山下 明

常任理事 和歌山県・玉津島神社 宮司 遠北 明彦

香川県・鹽竈神社 宮司 塩瀬 二弘
茨城県・種殿神社 宮司 土岐 美磨

理事 福岡県・宇原神社 宮司 廣瀬 正知
愛知県・六所神社 宮司 大竹 いつき

栃木県・鹽竈神社 宮司 伊藤 史展

監事 宮城県・鹽竈神社 宮司 力山 敏
宮城県・榴岡天満宮 宮司 菅野 棟之

本部長 志波彦神社 鹽竈神社 野口 次郎
顧問 長野県・鹽竈神社 宮司 大澤 明三



駒形神社を正式参拝

養成所通信

集約講義

当養成所では九月五日から七日にかけて、集約講義を実施しました。

本年より、長年にわたり御教授いただいていた中西正幸氏に代わり、國學院大學齊藤智朗教授をお迎えし、神道の概説論など御教授いただきました。

齊藤教授は宗教学・近代神道史・近代日本宗教史を専攻されています。

博物館だより

博物館実習実施

博物館では、九月三日から七日の五日間、令和元年度の博物館実習を実施しました。

本実習は博物館・美術館の学芸員の資格取得にかかわるもので、今回は東北学院大学より二名が参加しました。

博物館における様々な活動についての講義や各種資料の取扱い、拓本等の記録作成、資料の梱包作業など実習を行いました。

古文書や刀剣など実際の資料に向き合い、それぞれ真剣な面持ちで取組んでいました。

夏季神社実習

今夏、養成所の夏季休業に先立ち五日間の神務実習が実施されました。

受入先の各神社には格段の御高配をいただき、養成所とは異なる実習は生徒にとって得がたい経験となりました。

岩手県・駒形神社 (山下明宮司) 細越 大誉
岩手県・櫻山神社 (坂本広行宮司) 八重樫 凜
宮城県・竹駒神社 (村田守広宮司) 古谷 竜星

國學院大學指定実習

九月二日より八日までの一週間、國學院大學の学生を受け入れ指定実習を実施しました。

同大学の実習神社に指定される当社では、例年実習生を受け入れており、本年は神道文化学科四年生の高橋徳東君(岩手県)、三年生の工藤淑高君(長野県)、花田大輔君(神奈川県)、藤木保久君(京都府)の四名が社務所に泊り込み実習に臨みました。

実習内容は祭式や禊・鎮魂行法、奉製作業をはじめ、境内清掃、社頭での参拝者との

応対や祈祷奉仕など。緊張感を持って取組んでいました。最終日には閉講奉告祭を奉仕し、実習が無事終了した旨御神前に奉告しました。



参拝記録

六月から八月にかけて当社を正式参拝された方々を左記に御紹介いたします。(敬称略)

六月

- 一日 栃木県・西宮神社 二十二名
四日 東京都・武蔵野八幡宮役員会 十六名
六日 仙台千人講話人会 五名
八日 國學院大學法学部教授 森川隆氏
(一財)國學院大學院友会総務部長 中里陽一氏
十一日 島根県神社庁教化委員会出雲部会 三十三名
十三日 鹽竈会 九名
二十九日 東京都・雷門みずほ研修会幹事会 十三名

七月

- 三日 日本を元気にする古事記のこころ勉強会 三十名
五日 茨城県神社庁久慈支部 十七名
二十八日 福島県・明徳館幼稚園 十名

八月

- 二十日 島根県・出雲商工会議所 八名
二十六日 兵庫県・射楯兵主神社 西本和俊宮司他一名
二十七日 一森会 三十七名
東京都・青山学院大学学習支援ボランティア 五名

ご結婚
おめでどう
ごさいます

六月から八月にかけて、当社にて華燭の典を挙げられた方々を御紹介いたします。(敬称略)

六月

- 石巻市 高橋 淳
宮城郡 山田 莉奈
仙台市 達曾部 剛牙
仙台市 佐々木 史
宮城郡 森 誠
宮城郡 伊藤 望

神々の月灯り

しおがまさま

十月十二日・十三日の二日間、塩竈市青年四団体連絡協議会主催によるライトアップイベントが開催されます。

竹筒に立てたロウソクに火が灯され、境内が仄かな灯りに包まれるなか、古代笛が響きわたり、舞殿では琴・琵琶や神楽舞の演奏が行われます。



舞殿の演奏



- 塩竈市 伊藤 智博
仙台市 笠原 志保子
塩竈市 鈴木 雄大
仙台市 佐藤 文香
宮城郡 片倉 将堅
多賀城市 鈴木 たく美
多賀城市 加藤 一成
多賀城市 佐藤 優子
群馬県 中嶋 右大
山形県 卯月 貴子
秋田県 鈴木 成一
石巻市 鈴木 加代子
塩竈市 佐々木 龍一
宮城郡 太田 圭美
富谷市 森山 俊也
仙台市 遠藤 千恵子
黒川郡 宮澤 真吾
黒川郡 中津川 愛子
七月
登米市 工藤 勇弥
登米市 芳賀 美貴
岩手県 荻屋 章博
仙台市 櫻井 玲緒
八月
仙台市 岩田 充典
多賀城市 関内 千津子

